



平成21年全国消費実態調査について

茨城県企画部統計課 物価家計グループ 杉山 健介

1 暮らしの統計にご協力を！

全国消費実態調査は、昭和34年以降5年ごとに実施されており、政府の経済政策や社会政策を立てるのになくはならない調査となっております。具体的には、①年金制度や医療費、生活保護費の算定資料、②所得税や消費税の税制検討資料、③NHK受信料の検討、④内閣府の国民経済計算の推計などに利用されております。なお、平成21年調査は11回目の調査になります。

【調査の概要】

目 的：一般家庭の家計支出額や保有資産の実態を統計的に明らかにする。
国の経済政策や社会政策のための基礎資料とする。

対象世帯数：全国57,000世帯（茨城県内では1,473世帯）

*日本の世帯の縮図となるように統計的手法で選定

調査期間：平成21年9月～11月の3か月間

（単身世帯については10月～11月の2か月間）

2 日々の国民生活の実態を知る

全国消費実態調査では、世帯の職業や、住宅、宅地に関する「世帯票」、収入及び支出に関する「家計簿A・B」、主要耐久消費財に関する「耐久財等調査票」、年収や貯蓄現在高、借入金に関する「年収・貯蓄等調査票」の主に計4つの調査を行います。

これにより、世帯の収入や支出などの「動き」と、貯蓄・負債、住宅・土地、耐久消費財などの「保有額」の両者から、どのような世帯がどのような生活を送っているか調べることで、どのような世帯を対象として、どのような施策が必要か適切に判断することができます。また、2人以上世帯だけではなく、単身世帯についても調査を実施し、収支と資産の両面をとらえた総合的な結果を明らかにします。

さらに、都道府県別や都市別などの地域別結果や、購入先（一般小売店で購入したのかスーパーマーケットで購入したのか）及び購入地域（自宅と同じ市町村で購入したのか、他の市町村で購入したのか）も明らかにします。（サービス業を除く。）

世帯主の年齢別などに所得・消費・資産を総合的に把握できます

3 茨城県のエンゲル係数は低い

前回16年調査では以下のような結果が得られました。

家計収支（1世帯1か月の支出）

	茨 城 県		全 国 平 均	
	全 世 帯	勤 労 世 帯	全 世 帯	勤 労 世 帯
集 計 世 帯 数	1,365	797	53,112	31,025
世 帯 主 年 齢	54.0	47.3	53.7	46.5
年 間 収 入 (千 円)	7,339	6,896	6,925	7,401
消 費 支 出 (円)	343,984	373,747	320,063	339,212
エンゲル係数 (%)	21.0	19.9	22.6	21.7
貯蓄現在高 (千円)	16,224	13,355	15,867	12,311
負債現在高 (千円)	5,225	6,110	5,657	6,787

茨城県の全世帯消費支出は、神奈川県に次いで全国2位となりました。自動車購入、贈与金が多かったことによるものです。

勤労世帯の消費支出は、全国1位となりました。しかし、エンゲル係数は、香川県に次いで全国2位と低くなっております。これは、米、野菜等のもらい物や自家栽培が多いためと思われる。

4 調査結果が知りたいときは

平成21年度調査の結果については、下記のとおり公表予定です。

主要耐久財に関する結果	平成22年 7 月
単身世帯の家計収支、貯蓄・負債の結果	平成22年 9 月
2人以上の世帯の家計収支、貯蓄・負債の結果	平成22年12月
家計資産の結果	平成23年 3 月
各種係数、所得分布の結果	平成23年10月

これらのデータは、総務省統計局ホームページや県の行政情報センター（県庁舎3階）でご覧いただけます。

5 秘密は守られます

全国消費実態調査は、統計法の規定に基づく基幹統計調査として行われます。

調査により集められた個人情報、統計法によって保護されています。具体的には、統計調査員等の統計調査に携わる者に厳格な守秘義務が課せられているほか、記入していただいた調査票は集計が完了したのち溶解処分するなど、厳重に個人情報を保護しています。

皆さまのお宅に調査員が伺った際には、調査へのご協力をよろしくお願いいたします。



統計調査員制度について



1 統計調査員の仕事

統計調査員は、総務大臣等又は都道府県知事から任命される非常勤の公務員として、国勢調査、労働力調査、家計調査、工業統計調査、商業統計調査などの統計調査に従事しています。

具体的には、調査対象である世帯や事業所などに、調査票を配布するとともに、調査票に正しく記入していただけるよう、統計調査の趣旨や内容などについて説明を行います。記入された調査票を回収し、その点検・整理などの仕事を行っています。

- 国勢調査・・・日本国内の人口、世帯、就業者からみた産業構造などの状況を明らかにすることを目的に5年ごとに実施。
- 労働力調査・・・完全失業率など雇用・失業情勢を明らかにすることを目的として毎月実施。
- 家計調査・・・国民生活における家計収支の実態を明らかにすることを目的として毎月実施。
- 工業統計調査・・・従業者数、製造出荷額など工業の実態を明らかにすることを目的として毎年実施。
- 商業統計調査・・・従業員数、年間商品販売額など商業の実態を明らかにすることを目的として5年に2回実施。

2 統計調査員が担う役割

統計調査員は、調査対象の方々を訪問し、調査票の記入依頼や調査票の回収・点検といった統計調査の仕事の中でも基本的で重要な部分を受け持っています。

統計調査員が回収した調査票は、「統計」としてまとめられ、統計調査の結果として世の中に公表され、それは国や地方公共団体を始め様々なところで広く利用されています。

3 統計調査員の待遇など

〈統計調査員の身分〉

統計調査員は、総務大臣等や都道府県知事から、統計調査の都度任命される公務員です。

任命期間中は、国・都道府県・市町村に勤務する職員と同様に公務員の身分を有しますが、その業務が一時的なものであるため、非常勤の国家公務員又は地方公務員とされています。なお、職務の特殊性から、一般の公務員とは異なった取扱いがされており、例えば、営利事業の従事制限はありません。

〈統計調査員の報酬〉

統計調査員には、調査活動に従事した対価として、法律や条例の規定に基づき、報酬が支払われます。報酬額は、日額6,800円で調査活動にかかる日数などにより調査ごとに定められています。

〈統計調査員の災害補償〉

統計調査員は、非常勤の公務員ですから、調査活動中（任命期間中）に災害（交通事故など）に遭った場合には、一般の公務員と同様に、法律や条例の規定に基づいて、公務災害補償が適用されます。

〈統計調査員の表彰〉

特に功績の顕著な統計調査員に対しては、叙勲や藍綬褒章が贈られているほか、総務大臣、農林水産大臣、経済産業大臣など各統計調査の実施者から、それぞれの統計調査について功績のあった者に対し

■統計の窓

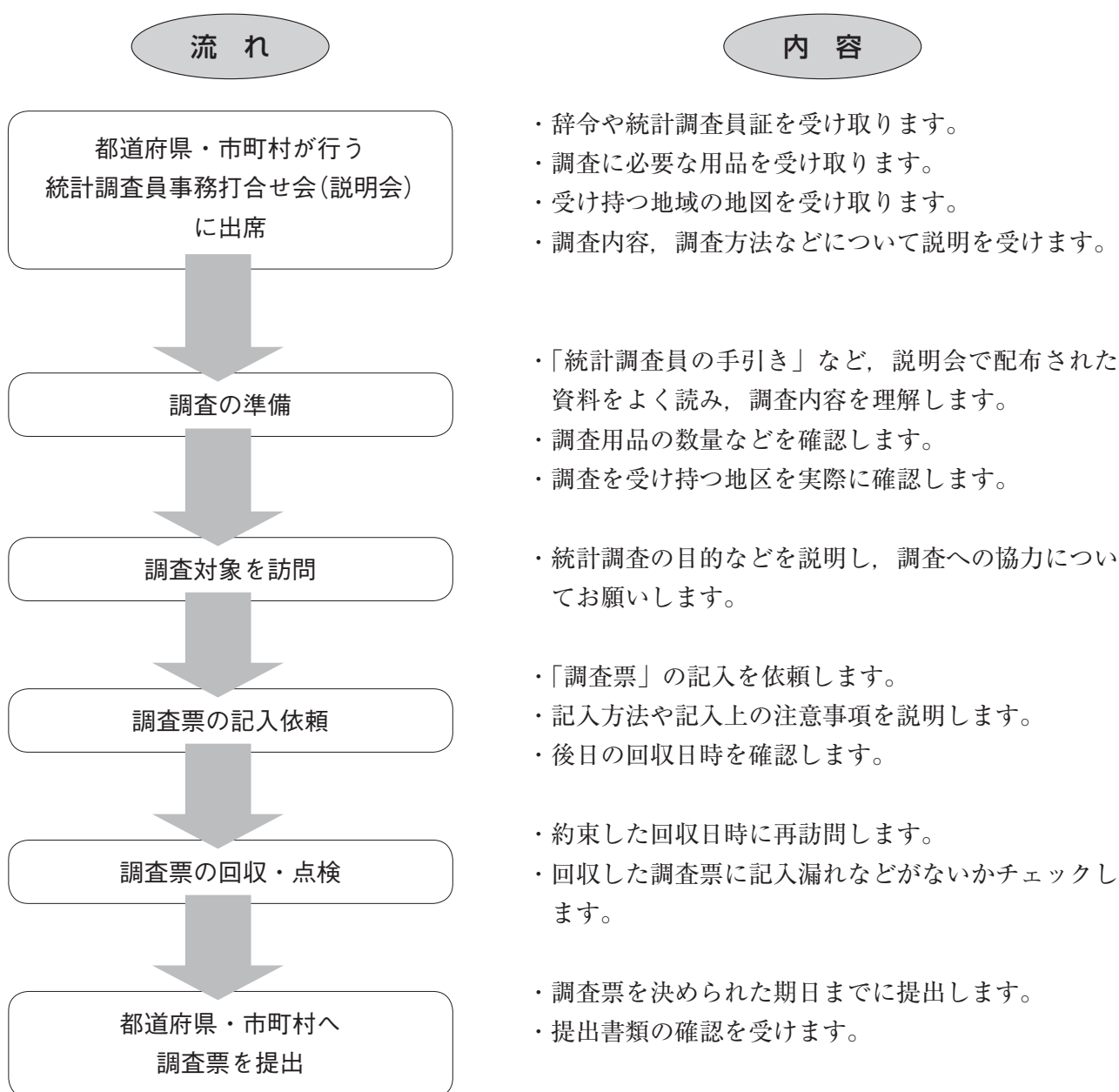


て、表彰が行われています。また、これとは別に、都道府県知事や一部の市町村長からの表彰も行われています。

〈統計調査員の義務（守秘義務）〉

統計調査の項目には他人に知られたくない事項も含まれていますので、調査対象から正しい内容を申告していただくため、統計調査員は、統計法で秘密の保護が義務づけられており（守秘義務）、秘密を漏えいした場合などには、罰則が適用されることとなっています。

○統計調査員の仕事の流れ（標準的なもの）



国勢調査など統計調査員の仕事に関心をお持ちの方は、各市町村統計担当課へご相談ください。

～統計課にインターンシップ生がやって来ました～

9月1日～9月14日の約2週間、茨城大学人文学部社会科学科2年生の高倉敬太さんが統計課にインターンシップに来ました。普段の学生生活ではなかなか働く職場の雰囲気を味わえないので、今回は高倉さんにとって貴重な経験になったことと思います。

そこで、高倉さんに今回のインターンシップを統計課で志望した理由や実際に働いてみての感想などを伺いました。



名 前：高倉 敬太 (たかくら けいた)
大 学：茨城大学人文学部社会科学科2年
出 身 地：茨城県龍ケ崎市
趣 味：海外サッカー観戦・ジョギング
将来の夢：人と接する仕事がしたい

Q1：インターンシップを統計課で志望した理由は？

将来へのビジョンが漠然としていることと、社会に出て「働く」ことを体験し、将来について考える良い機会になれば良いと思って志望しました。今までに見えずにいた何かが見え、これから残りの大学生活に生かせる経験ができるのではないかとも思いました。以前に統計資料を集めるアルバイトをしていたことがあったので、資料をどのように集計し、分析を行っているのかについて興味を持ったので、統計課を志望しました。

Q2：働く前の統計の仕事のイメージは？

主に資料収集のために頻繁に出張をしたり、パソコンで統計のグラフや資料を作成し、資料の分析をメインに行い、対策を話し合っているのが統計の仕事のイメージでした。

Q3：今回は実際にどういった仕事を体験しましたか？

人口労働グループでは、労働力調査の仕事を担当させていただき、調査内容の理解・調査員の方々に送る調査用品梱包の手伝い・調査の事前説明会を体験しました。

普及情報グループでは、調査員研修会に参加しコミュニケーションや話し方についての講義を体験しました。

企画分析グループでは、資料の読み取り方を教えていただき、実際にグラフや表を作るといった体験をしました。

Q4：実際に統計課で働いてみての感想は？

統計課では、県民の理解や協力がとても重要であると感じました。最も痛感したのは、資料収集の大変さです。研修会で直接、調査員さんのお話を聞き、調査資料を集めるまでの大変さを知りました。また、目的の資料がないときなどは、実際に統計課以外の担当から資料をいただいたりと苦労しました。資料の分析だけではない大変さも経験できました。そして、一日中パソコンの前に座り、作業することが普段慣れていない自分にとってはそれだけでも大変なことでした。

しかし、ご多忙にもかかわらず職員の方から、一から丁寧に仕事を教えていただきました。

この経験は、自分の将来を見つめ直す良いきっかけになったと思います。本当にありがとうございました。

2週間という短い期間でしたが、インターン初日と最終日には、顔つきが少し変わった高倉さん。「社会とは何か、仕事とは何か」を考え、自分の適性を知る上でもインターンシップは有益なものです。今回の統計課での仕事体験をもとに、将来の職業選択についてじっくり考えていただければと思います。



県内総生産データを用いて産業別労働生産性を分析



企画分析G係長からのレクチャー



労働力調査調査員事務打合会に参加